

令和7年度文部科学省

「大学入学者選抜改革推進委託事業（生成AI等の活用）」を受託

代表大学



国立大学法人

佐賀大学

連携大学：東北大学、関西大学

現状・課題

大学入学者選抜は、大学教育の機会を提供し、入学志願者の能力の伸長を期するための教育的取組であり、当該大学で学び、卒業するために必要な資質・能力等を備えた人材を適切に見いだすことが重要である。このため、大学入学者選抜においては、受験機会や選抜方法における公平性・公正性の確保はもとより、各大学のアドミッション・ポリシーに基づき、大学教育を受けるために必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力等を適切に評価・判定するため、さらなる入試方法の多様化、評価尺度の多元化が求められているところである。

このような大学入学者選抜の実施に当たっては、業務に携わる教職員等の負担の増大が大学関係者から指摘されているが、それだけの負担を以てしても、作問・採点におけるミスの発生等、課題が多くある現状である。特に作問業務については教職員の負担が大きく、研究時間確保の観点からも負担軽減の必要性が指摘されている。

これらの課題解決方法の一つとして、近年急速に技術が進展し、利用者が急増している高度な生成AIの活用が考えられるが、公平性・公正性が求められる大学入試業務においては、その活用可能性やリスクについて十分な検討を行う必要がある。

事業内容

大学入試業務における生成AIの活用可能性と範囲を明らかにするとともに、各大学等の大学入試業務において生成AIを活用する際の効果をシミュレーションする。

また、大学入試業務において生成AIを活用する際の、生成AIと教職員の適切な役割分担、構築すべき情報環境やセキュリティ対策について一定のガイドラインを取りまとめる。

これらの成果を全国の大学に普及することにより、各大学での入試業務の効果的・効率的な実施を促進し、大学入試業務における公平性・公正性の確保や大学教職員等の負担軽減等、大学入学者選抜全体の質の向上を推進する。

<実施例>

作問・採点等に係る負担の増大



大学入試業務への生成AI活用



教職員の負担軽減等



成果を全国の大学に普及、
大学入試業務の効果的・効率的な実施の促進



事業実施期間	令和7～8年度（予定）	件数・単価	1件 10,000千円／年
委託先	国公立大学、独立行政法人等		

アウトプット（活動目標）

大学入試業務における生成AIの活用可能性と範囲を明らかにし、一定のガイドラインを取りまとめ、その成果を全国の大学に普及する。

短期アウトカム（成果目標）

各大学での入試業務の効果的・効率的な実施を促進。

長期アウトカム（成果目標）

大学入試業務における公平性・公正性の確保や大学教職員等の負担軽減等、大学入学者選抜全体の質の向上を推進する。

事業名：「生成AIを活用した大学入試業務の在り方に関する検討」

委託事業として求められていること	本事業の取り組み
大学入学者選抜業務における生成AIの活用可能性と範囲を明らかにする。	国内の大学教職員を対象としたアンケートや聞き取り調査を実施し、 現在の入試業務における問題点、生成AI活用の現状、生成AI活用場面のニーズ を把握するとともに、 シミュレーションから得た知見を加えて生成AIの活用可能性と範囲を明確にする。
各大学の入学者選抜業務において生成AIを活用する際の効果をシミュレーションする。	大学入試の具体的場面におけるシミュレーションを実施し、効果検証を行う。これにより 生成AIを活用して出来ること、出来ないことを明確にし、ガイドラインに反映すべき必要な情報を整理 する。
大学入学者選抜業務において生成AIを活用する際の、生成AIと教職員の適切な役割分担、機密性の高い情報を取り扱うための利用環境（セキュリティ対策を含む。）について一定のガイドラインを取りまとめる。	生成AIと教職員の適切な役割分担の在り方、技術的な有用性と限界、倫理面、権利侵害等を含む法的安全性、情報環境やセキュリティ対策などを考慮した 大学入試業務における生成AIの活用ガイドラインを策定 する。
事業成果を全国の大学に普及する。	本事業で実施した調査結果や作成したガイドラインを取りまとめ、報告書を作成するとともに、 シンポジウムや学会発表等 を行う。また、 事業進捗や成果を随時ホームページにおいて情報発信 する。

代表大学

佐賀大学（アドミッションセンター）

連携大学

東北大学（アドミッション機構）

関西大学（入試センター）

以下の機関・企業様から助言等をいただく予定です。（五十音順）

- 佐賀県教育委員会（大学入試を受験する高校側からの助言）
- 日本マイクロソフト株式会社（生成AIに関する技術的な助言）
- プロメトリック株式会社（生成AIを活用したテスト開発・運用に関する助言）